

JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY THE RAICHO HIRATSUKA PRIZE



2009 (平成21) 年2月7日

報道関係各位

学校法人 日本女子大学

第四回「平塚らいてう賞」贈賞式が開催される

～顕彰（1件）「山内恵氏」、奨励（1件）「孔令亜氏」、特別（1件）「飯島ユキ氏」～

第四回平塚らいてう賞贈賞式は、2月7日（土）午後2時00分から日本女子大学新泉山館大会議室（目白キャンパス）にて開催し、日本女子大学後藤祥子学長より、顕彰1件 山内恵氏（津田塾大学、ライティングセンター、特任教授）、奨励1件 孔令亜氏（日本女子大学大学院家政学研究科生活経済専攻修士課程）、特別1件 飯島ユキ氏（俳句 羅（ra）の会）に対して、それぞれ賞状と副賞賞金を贈呈した。

「平塚らいてう賞」は、「平塚らいてうの記録映画を上映する会」のご芳志をもとに、人生を女性解放や世界平和のための活動に捧げた平塚らいてう氏（1906年日本女子大学卒業）の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対する顕彰と奨励をはかることを目的に創設したものである。

募集にあたっては、本趣旨を社会に広く伝えまた今後の活動が進展することを願って、全国で研究や活動を行っている個人または団体を対象としている。

第四回目今回は、4件（顕彰3・奨励1）の応募があり、厳正な審査の結果、受賞者を決定した。

顕彰はこれまで際立った功績をあげた者に授与され、奨励は研究や活動を継続的に行っている者、あるいは新たに取り組もうとしている者に授与される。また本年は平塚らいてうの人物並びに活動を再認識させ、広く知らしめた功績に対して特別賞を設けた。

本賞は、平塚らいてうの精神を受け継ぎ、平和で平等な21世紀の社会を作るために行うものであり、今後もこれからの社会を担う多くの若い研究者や活動家の応募を期待したい。

JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY THE RAICHO HIRATSUKA PRIZE

「第四回 平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第四回受賞者の選考にあたり、私どもは、候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の諸業績に対して、「顕彰」、「奨励」、「特別」に値するとの結論に達しました。それぞれのご業績の特色や褒賞に値する観点は下記の通りです。

< 顕 彰 >

受賞者：山内恵氏（津田塾大学、ライティングセンター、特任教授）

研究テーマ：アメリカ社会文化史、アメリカ女性史、日米女性比較史

受賞理由：

本年度の「平塚らいてう賞」の顕彰部門は、山内氏の『不自然な母親と呼ばれたフェミニスト—シャーロット・パーキンズ・ギルマンと新しい母性—』（東信堂、2008年5月）に授与されることになった。

本書は女性解放思想の歴史における「母性」をめぐる問題にメスを入れ、同時代の女性解放思想の文脈のなかで、ギルマンの「母性思想」がもつ新しさとその意味を探り、フェミニズムの流れのなかに正しく位置づけようとしたモノグラフである。

日本ではギルマンは小説『黄色い壁紙』の作者として一般に知られているアメリカ女性作家であるが、実践的な思想家としてのギルマンは当時のフェミニズムのいずれの陣営に対しても距離をおき、独自の先鋭な女性解放思想を創り上げて行った人である。その思想の軌跡は膨大な著作として残されているが、山内氏は一次資料、二次資料ともよく読みこみ、19世紀から20世紀にかけての時代の転換期に生きたギルマンが、母性愛に乏しい「不自然な母親」という烙印を押され苦闘しながらも、「近代」という時代を超えた普遍性をもつ母性思想・女性解放思想に到達しようと努力したことを証明した力作である。

「母性とフェミニズム」のせめぎあいのなかに、山内氏は「近代」フェミニズムそのものの持つ矛盾と葛藤があることを指摘し、ギルマンは「それらすべてを糧としてラディカルなフェミニズム思想を創り上げた」と結論する。そして母性を私的領域から社会的領域へ解放しようとしたギルマンの主張は、現在も全面的に認められてはいないことを考えれば、山内氏が研究したギルマンにおける「新しい母性」の問題は、未だ継続している問題であり、そこに本書刊行のもうひとつの意味がある。

最終章「ギルマンのフェミニズム思想と日本の受容」では、成瀬仁蔵、平塚らいてう、山川菊栄などそれぞれがギルマンの思想にどのように反応したかを論じていることも興味深い。

山内氏は、1970年愛知県立大学外国学部卒業後、企業に就職し働いたが、長男の出産を機に退職、20余年間3人の子育てと主婦業に専念した。42歳のとき埼玉大学教養学部にて学士入学、続いて同大学大学院文化科学研究科に進学した後、東京外国語大学大学院地域文化研究科博士課程後期に入学、コーネル大学大学院への1年間の留学を経て、2001年同大学同研究科を満期退学し、2002年東京外国語大学より学術博士号を授与された。山内氏のこのような経験は、氏のシャーロット・パーキンズ・ギルマン研究が単に机上の空論でなく、実際の体験に裏打ちされた問題意識の存在の結果であると推察される。その意味で本研究には著者の切実さが感じられ、女性解放はどのようなものであるべきかについてギルマンと共に考えている著者の真摯な姿勢が反映している著作である。

< 奨 励 >

受賞者：孔令亜氏（日本女子大学大学院家政学研究科生活経済専攻修士課程）

研究テーマ：中国都市部の女性労働問題とその課題

受賞理由：

経済のグローバル化が進むなかで、中国社会の変容にひとびとの関心が向かっている。ダイナミックに社会が変化していくなかであって、中国の女性たちはどのように働き、生活しているのか。中国社会が大きく変容しているなかで、女性労働者の現状と課題はどこにあるのか。本論文はそれを日本との比較であきらかにしようとするものである。

社会制度の違いは女性労働者の実態にどのように異なった影響をもたらすのか。男女の平等が原則の社会主義の国で男女間の収入格差が生じるのはなぜなのか。本研究は女性労働の分析において十分に解明されていなかった分野に新たな光を当てる研究であるとおもわれる。

< 特 別 >

受賞者：飯島ユキ氏（俳句 羅 (ra) の会）

研究テーマ：俳句を通しての平塚らいてうの顕彰・季語「らいてう忌」の普及

受賞理由：

著書『今朝の丘 平塚らいてうと俳句』を2007年11月に出版した。女性解放と平和運動に力を入れた平塚らいてうは、若いときから俳句愛好家であった。一部には知られていたが、飯島氏によって収集され、はじめてこの句集となった。飯島氏自身、句集を出版し俳誌「羅」の代表者であり、若いときに平塚家の近隣に住み、夫婦にかわいがられ、亡くなるまで交流があったのも縁となっている。

表題は どころなく春の日ざしや今朝の丘 からとられている。

本書出版後、反響を呼び、新聞その他で紹介され、らいてうの一面を知らせる書として注目されたが、それを契機に歳時記の季語として「らいてう忌」の復活を願って、「らいてう忌」の俳句募集に踏み切った。第一回は2053句、第二回は1801句が、男女を問わず、国内外からも投句され、入選句が公表されている。今後も、活動を継続する由である。

日本発祥の文学俳句をたしなむ人々は多く、「らいてう忌」への反響は広範に広がった。あらためてらいてう先駆者としての願いをこの活動が推進する役割を果たすと期待している。

以上

顕彰：津田塾大学、ライティングセンター、特任教授
山内恵（やまうちめぐみ）氏の受賞スピーチ（要旨）

第4回「平塚らいてう賞」を授与される拙書『不自然な母親と呼ばれたフェミニスト』のテーマは「女性にとって母親であることと仕事の両立はなぜ困難なのか」です。3人の子どもの母親であり専業主婦だった私は42歳で大学に社会人入学し、一般の学生がほとんど関心を持つことなかった地味なこのテーマと20年近く向き合い一生懸命取り組んでまいりました。いわば私の個人的疑問を解明するためにスタートした研究でしたが、その後大学院進学、更にはアメリカ留学という体験をとおしようやく博士論文という形でその成果をまとめることができました。昨年、その博士論文を本として出版し、このたびは受賞という栄誉も与えられ、私の取り組んで来たテーマが、今日の問題（少子化対策、ワークライフバランス）へと繋がることを実感します。私のささやかな体験からの問いかけでしたが、拙い研究ながらその成果が社会の中で評価された喜びと責任の重さを今改めて感じています。

問い合わせ先 日本女子大学 広報渉外課
電話:03-5981-3176
FAX:03-5981-3164